

1

$P(s, t)$ とおく.

P は第1象限にある点の上の点より

$$\begin{cases} 0 < s < 1 \\ 0 < t < 1 \\ s^2 + t^2 = 1 \quad \dots \textcircled{1} \end{cases}$$

$\therefore P$ における C の接線 Q の方程式は

$$Q: sx + t = 1$$

故物線 $K: y = 2 - x^2$ より y を消去して

$$sx + t(2 - x^2) = 1$$

$$tx^2 - sx + 1 - 2t = 0 \quad \dots \textcircled{2}$$

$t \neq 0$ に注意し, 判別式 D とおくと

$$\begin{aligned} D &= s^2 - 4t(1 - 2t) \\ &= (1 - t^2) - 4t(1 - 2t) \quad (\textcircled{1} \text{より}) \\ &= 7t^2 - 4t + 1 \quad \dots \textcircled{3} \\ &= 7\left(t - \frac{2}{7}\right)^2 + \frac{3}{7} > 0 \end{aligned}$$

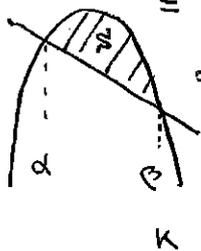
ゆえに, Q と K は異なる2点が交わる

$\textcircled{2}$ は異なる2つの実数解 $\alpha, \beta (\alpha < \beta)$

$$\text{をもち, } S = \int_{\alpha}^{\beta} \{2 - x^2 - (-\frac{s}{t}x + \frac{1}{t})\} dx$$

$$= \int_{\alpha}^{\beta} \{-(x - \alpha)(x - \beta)\} dx$$

$$= \frac{1}{6} (\beta - \alpha)^3 \quad \dots \textcircled{4}$$



S の最小となるのは

$\beta - \alpha$ が最小になる

ときである.

$\alpha, \beta (\alpha < \beta)$ は $\textcircled{2}$ の異なる2根

$$\beta - \alpha = \frac{s + \sqrt{D}}{2t} - \frac{s - \sqrt{D}}{2t} \quad (t > 0 \text{より})$$

$$= \frac{\sqrt{D}}{t}$$

$$= \frac{\sqrt{7t^2 - 4t + 1}}{t} \quad (\textcircled{3} \text{より})$$

$$= \sqrt{7 - \frac{4}{t} + \frac{1}{t^2}} \quad (t > 0 \text{より})$$

$$= \sqrt{\left(\frac{1}{t} - 2\right)^2 + 3}$$

$0 < t < 1$ であるから $\frac{1}{t} > 1$ であり

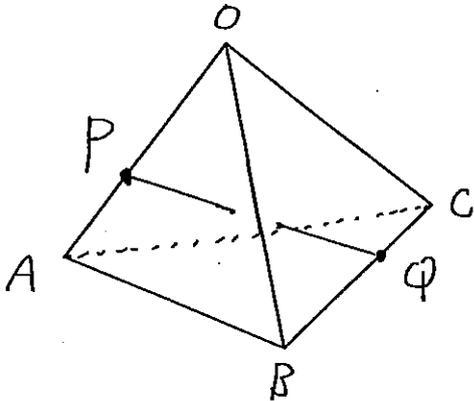
$\frac{1}{t} = 2$ であるとき $t = \frac{1}{2}$ のとき

$\beta - \alpha$ は最小値 $\sqrt{3}$ をとる.

したがって, $\textcircled{4}$ より

S の最小値は $\frac{\sqrt{3}}{2}$... (答)

2 $r > 0$.



辺BC上に点Qをとる。
 点Pが辺OA上を、点Qが辺BC上を
 それぞれ独立に動いたときの線分PQ
 の長さの最大値をM, 最小値をm
 とすると、求めるrの値の範囲は、

$$0 < r < m, \quad M < r \quad \dots (*)$$

である。

$$\vec{OA} = \vec{a}, \quad \vec{OB} = \vec{b}, \quad \vec{OC} = \vec{c} \quad \text{とおく。}$$

$$\vec{OP} = s\vec{a} \quad (0 \leq s \leq 1)$$

$$\vec{OQ} = (1-t)\vec{b} + t\vec{c} \quad (0 \leq t \leq 1)$$

と表すことができる。

$$\vec{PQ} = \vec{OQ} - \vec{OP}$$

$$= -s\vec{a} + (1-t)\vec{b} + t\vec{c}$$

よって、

$$|\vec{PQ}|^2 = |-s\vec{a} + (1-t)\vec{b} + t\vec{c}|^2$$

$$= s^2|\vec{a}|^2 + (1-t)^2|\vec{b}|^2 + t^2|\vec{c}|^2$$

$$- 2s(1-t)\vec{a} \cdot \vec{b} + 2(1-t)t\vec{b} \cdot \vec{c}$$

$$- 2st\vec{c} \cdot \vec{a}$$

$$\therefore |\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = 1,$$

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a} = 1 \cdot 1 \cdot \cos \frac{\pi}{3} = \frac{1}{2}$$

を用いると、

$$|\vec{PQ}|^2 = s^2 + (1-t)^2 + t^2$$

$$- 2s(1-t) + 2(1-t)t - 2st$$

$$= s^2 - 2s + 2s + t^2 - 2t + 2t - 2st$$

$$= (s - \frac{1}{2})^2 + (t - \frac{1}{2})^2 + \frac{1}{4}$$

s, t は、独立に $0 \leq s \leq 1, 0 \leq t \leq 1$
 の範囲を動くことに注意する。

$$0 \leq (s - \frac{1}{2})^2 \leq \frac{1}{4}, \quad 0 \leq (t - \frac{1}{2})^2 \leq \frac{1}{4}$$

$$\therefore \frac{1}{4} \leq |\vec{PQ}|^2 \leq 1,$$

したがって、

$$M = 1, \quad m = \frac{\sqrt{2}}{2}$$

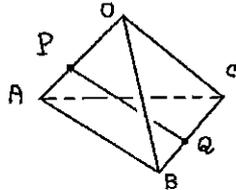
(*)より、求めるrの値の範囲は、

$$0 < r < \frac{\sqrt{2}}{2}, \quad 1 < r \quad \dots (\text{答})$$

2 (別解)

$r > 0$.

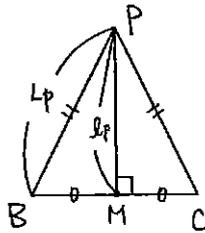
P を固定する。辺 BC の中点を M とし、
 PB, PM の長さをそれぞれ L_p, l_p とおく。



$\triangle OPB \cong \triangle OPC$ より
 $\triangle PBC$ は $PB=PC$ の二等辺三角形
 であるから、辺 BC 上の点 Q に対して、

$$l_p \leq PQ \leq L_p \dots \textcircled{1}$$

が成り立つ。

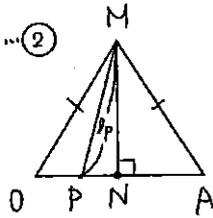


次に点 P を辺 OA 上で動かす。

$\triangle COM \cong \triangle CAM$ より
 $\triangle MOA$ は $MO=MA$ の二等辺三角形
 であるから、辺 OA の中点を N とすると、

$$MN \leq l_p \dots \textcircled{2}$$

が成り立つ。

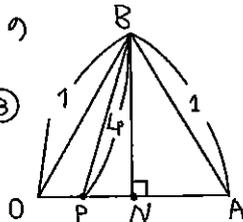


$\triangle OAB$ は辺の長さが1の
 正三角形であるから、

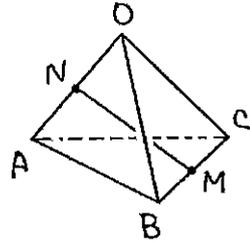
$$L_p \leq 1 \dots \textcircled{3}$$

($OA=OB=1$)

が成り立つ。



$$\begin{aligned} MN &= \sqrt{BN^2 - BM^2} \\ &= \sqrt{OB^2 - ON^2 - BM^2} \\ &= \sqrt{1 - (\frac{1}{2})^2} \cdot 2 \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} \end{aligned}$$



と ①, ②, ③ より、点 P が辺 OA 上、
 点 Q が辺 BC 上で動くとき、
 PQ のとりうる値の範囲は、

$$\frac{\sqrt{3}}{2} \leq PQ \leq 1.$$

ここで、 P を中心とする半径 r の球面が
 辺 BC と共有点をもつ条件は、

$$PQ = r$$

となる辺 BC 上の点 Q が存在すること
 であるから、辺 OA 上のある点 P で、

点 P を中心とする半径 r の球面が
 辺 BC と共有点をもつような r の範囲は、

$$\frac{\sqrt{3}}{2} \leq r \leq 1.$$

よって、点 P が辺 OA 上のどこにあっても、
 点 P を中心とする半径 r の球面が
 辺 BC と共有点をもたないような r の範囲
 は、 $r > 0$ を考慮して、

$$0 < r < \frac{\sqrt{3}}{2}, 1 < r \dots \text{(答)}$$

3

合同式は、すべて3を法とする、

p は3より大きい素数なので、

$$p \equiv 1 \text{ または } p \equiv 2,$$

(1) N は $2p$ 以上の整数である。

(ア) $N \equiv 0$ のとき

$\frac{N}{3}$ は0以上の整数であり、

$$N = 3 \cdot \frac{N}{3} + p \cdot 0.$$

(イ) $N \equiv 1$ のとき

$p \equiv 1$ であれば、 $\frac{N-p}{3}$ は0以上の整数であり、

$$N = 3 \cdot \frac{N-p}{3} + p \cdot 1.$$

$p \equiv 2$ であれば、 $2p \equiv 1$ より $\frac{N-2p}{3}$ は0以上の整数であり、

$$N = 3 \cdot \frac{N-2p}{3} + p \cdot 2.$$

(ウ) $N \equiv 2$ のとき

$p \equiv 1$ であれば、 $\frac{N-2p}{3}$ は0以上の整数であり、

$$N = 3 \cdot \frac{N-2p}{3} + p \cdot 2.$$

$p \equiv 2$ であれば、 $\frac{N-p}{3}$ は0以上の整数であり、

$$N = 3 \cdot \frac{N-p}{3} + p \cdot 1.$$

以上より、 $2p$ 以上の整数 N は、

0以上の整数 m, k を用いて

$$N = 3m + pk$$

と表すことができる。(証明終り)

(2) (1)より、 $N \leq 2p-1$ として個数を求めればよい。

(i) $N \leq p-1$ のとき

$k=0$ として考えればよく、表すことのできない N は、3の倍数でないものである。

$p \equiv 1$ であれば、 $p-1 \equiv 0$ より、3の倍数でない N は、

$|1, 2|, |4, 5|, \dots, |p-3, p-2|$ の $\frac{2}{3}(p-1)$ 個

$p \equiv 2$ であれば、 $p-1 \equiv 1$ より、3の倍数でない N は、

$|1, 2|, |4, 5|, \dots, |p-4, p-3|, |p-1|$ であり、

$$\frac{2}{3}(p-2) + 1 = \frac{2}{3}p - \frac{1}{3} \text{ (個)}.$$

(ii) $p \leq N \leq 2p-1$ のとき

$k=0, 1$ として考えればよく、いずれでも表せない N は、 $N, N-p$ がいずれも3の倍数でない N である。

$p \equiv 1$ であれば、 $N \equiv 2$ であるものあり、 $p+1, p+4, \dots, 2p-3$ の $\frac{1}{3}(p-1)$ 個。

$p \equiv 2$ であれば、 $N \equiv 1$ であるものあり、 $p+2, p+5, \dots, 2p-3$ の $\frac{1}{3}(p-2)$ 個。

(i), (ii)を合わせて、

$$\frac{2}{3}(p-1) + \frac{1}{3}(p-1) = \frac{2}{3}p - \frac{1}{3} + \frac{1}{3}(p-2)$$

$= p-1$ より、求める個数は

$$p-1 \text{ 個} \quad \dots \text{ (答)}$$

4

(1) $[\log_3 k] = l$
 となるような k の範囲は、

$$3^l \leq k \leq 3^{l+1} - 1$$

であるから、

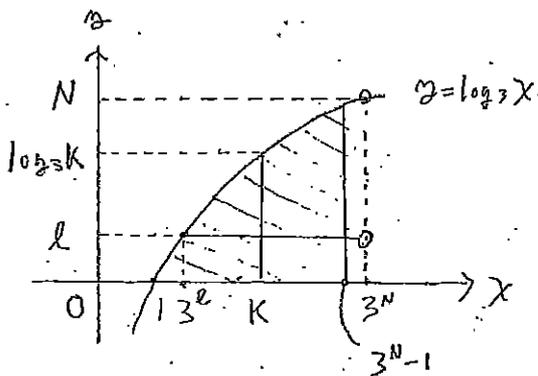
$$[\log_3 k] = \begin{cases} 0 & (1 \leq k \leq 2) \\ 1 & (3 \leq k \leq 8) \\ 2 & (9 \leq k \leq 26) \end{cases}$$

よって、

$$\begin{aligned} a_{26} &= \sum_{k=1}^{26} [\log_3 k] \\ &= 2 \cdot 0 + 6 \cdot 1 + 18 \cdot 2 \\ &= 42 \dots (\text{答}) \end{aligned}$$

(2) $1 \leq x \leq 3^N - 1$,
 $0 < y \leq \log_3 x$

で表される領域を考える。



直線 $x = k$ ($k = 3, \dots, 3^N - 1$) 上でこの領域に含まれる格子点 (x, y) (座標がともに整数である点) は、

$(k, 1), (k, 2), \dots, (k, [\log_3 k])$ であり、 $[\log_3 k]$ 個ある。

$k = 1, 2$ のとき、 $[\log_3 k] = 0$ であることに注意すると、

$$a_m = \sum_{k=1}^{3^m - 1} [\log_3 k]$$

は、この領域内の格子点の総数である。

$N \geq 2$ のとき、直線 $y = l$ ($l = 1, 2, \dots, N - 1$) 上で、この領域に含まれる格子点は、

$(3^l, l), (3^l + 1, l), \dots, (3^N - 1, l)$ であり、 $(3^N - 3^l)$ 個ある。

よって、

$$\begin{aligned} a_m &= \sum_{l=1}^{N-1} (3^N - 3^l) \\ &= (N-1) \cdot 3^N - \frac{3(3^{N-1} - 1)}{3-1} \\ &= (N-1) \cdot 3^N - \frac{1}{2} \cdot 3^N + \frac{3}{2} \\ &= \left(N - \frac{3}{2}\right) \cdot 3^N + \frac{3}{2} \end{aligned}$$

4

(これは $N=1$ のときも成立する.)

以上より,

$$a_m = \left(N - \frac{3}{2}\right) \cdot 3^m + \frac{3}{2}.$$

... (答)

(補足)

(2) において, $N=3$ とすると,

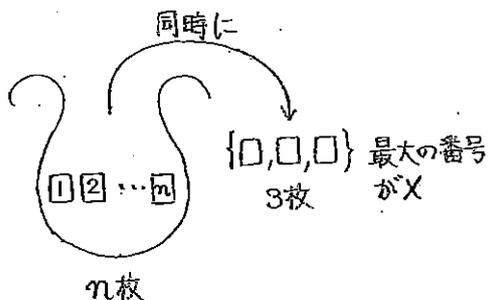
$$m = 3^3 - 1 = 26.$$

$$a_{26} = \left(3 - \frac{3}{2}\right) \cdot 3^3 + \frac{3}{2}$$

$$= 42. \text{ (1) の答)}$$

5

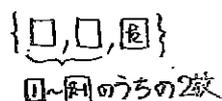
$n \geq 3$.



取り出し方は nC_3 通りであり, これらは同様に確からしい.

$3 \leq r \leq n$.

$X=r$ となるのは, 取り出した3枚が



となる場合で, $r-1C_2$ 通りある.

よって,

$$P(X=r) = \frac{r-1C_2}{nC_3} = \frac{(r-1)(r-2)}{2nC_3}$$

Xの期待値は

$$\begin{aligned} E(X) &= \sum_{r=3}^n r P(X=r) \\ &= \frac{1}{2nC_3} \sum_{r=3}^n r(r-1)(r-2) \\ &= \frac{1}{2nC_3} \sum_{r=3}^n \frac{1}{4} \{ (r+1)r(r-1)(r-2) - r(r-1)(r-2)(r-3) \} \\ &= \frac{1}{8nC_3} \{ \cancel{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} - 3 \cdot 2 \cdot 1 \cdot 0 \\ &\quad + \cancel{5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2} - 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1 \\ &\quad + \dots \\ &\quad + (n+1)n(n-1)(n-2) - n(n-1)(n-2)(n-3) \} \end{aligned}$$

$$= \frac{1}{8nC_3} \cdot (n+1)n(n-1)(n-2)$$

$$= \frac{3(n+1)}{4}$$

--- (答)